

公民館美術展

平成26年度公民館美術展が11月の各週末に町内の公民館で開催されました。

今年もたくさんの方々のご協力により、華やかでとても素敵な作品が展示され、訪れた方々の目を楽しませました。



七会公民館(11月1日・2日)



桂公民館(11月8日・9日)



常北公民館(11月15日・16日)

俳句

凍雲に吹きおとされて雀たち
飯田 勇一
小さき屋根ばかりが続き雪降り
鯉淵 寿美恵
虎落笛注連縄石にからみつき
森 静江
葉を落とし大木のごと冬木立
仲田 まちゑ
春の家の二階より暮れ木守柿
竹内 幸子
はやぶさの宇宙へと発ち冬銀河
今瀬 多代美

新暦いろいろありて迷ひけり
飯村 昭子

林道に籠いっぱいの茸売り
一杉 常子
校庭に金次郎の碑空つ風
綿引 英子
吾亦紅別れの朝の停留所
袴塚 よし子
幽かなる投函の音霜の朝
瀬谷 博子
はやぶさのあつという間の冬の雲
岩下 金司
青鷺のぐいぐい空を漕ぎて飛ぶ
田口 勝元
奉安殿ありしところに冬桜
寺門 孝子

川柳

老い感ず孫から初のお年玉
富田 多蔵
長生きの褒美にもらう遠い耳
青木 新三郎
T・P・P あま・ま・りうまく
は進みません
飯村 孝一

短歌

弟妹の逝きたりし日が過ぎゆけり
紅葉躍ふ晩秋の夕暮
大森 久子
秋雲の流れゆく果て亡き母の横顔に似た雲のとどまる
青柳 京子
手打ちそば賜びし度にありがたく
若き夫婦の真心身に沁む
所 美恵子
ご詠歌の同信の声ひびかせて坂
東靈場六カ寺めぐる
杉山 みちこ

文芸しろさと

ふんわりと炊き込みごはんの匂ひ立つ厨に孫らの来るを待ちをり
渡辺 千紗子
女孫三人どの子も愛し健やかに
学びの坂を今のぼりつつ
山形 式妙
我が家を囲む山々師走風裸木ゆるする寒風の音
鶴田 すが
長き年稲を作りて暮らした老いて悲しや継ぐ人のなし
菌部 光子
掛軸を白から作る老い樂し一字一字に思い出多し
富田 欽子
紅葉のくれない鮮けし山間の雲巖寺しずか初冬の日暮れ
枝 不美



枯れ葉舞う朝のひとつとき若人の挨拶しつづ駆け抜けてゆく
島 愛子
杖忘れ病院へ行く道すがら塀や電柱よりどころとし
坪井 きよ子
日常の悲喜こもごもを聴きくれし姉逝きたるを認め難かり
萩谷 登喜子
陽に映えてやさしく彩どるもみじ葉は今日の西風に散り急ぐなり
富田 佐智子

